

Embassy of Japan in Saudi Arabia

カントリーレポート ～サウジアラビア～

第47回中東協力現地会議プログラム

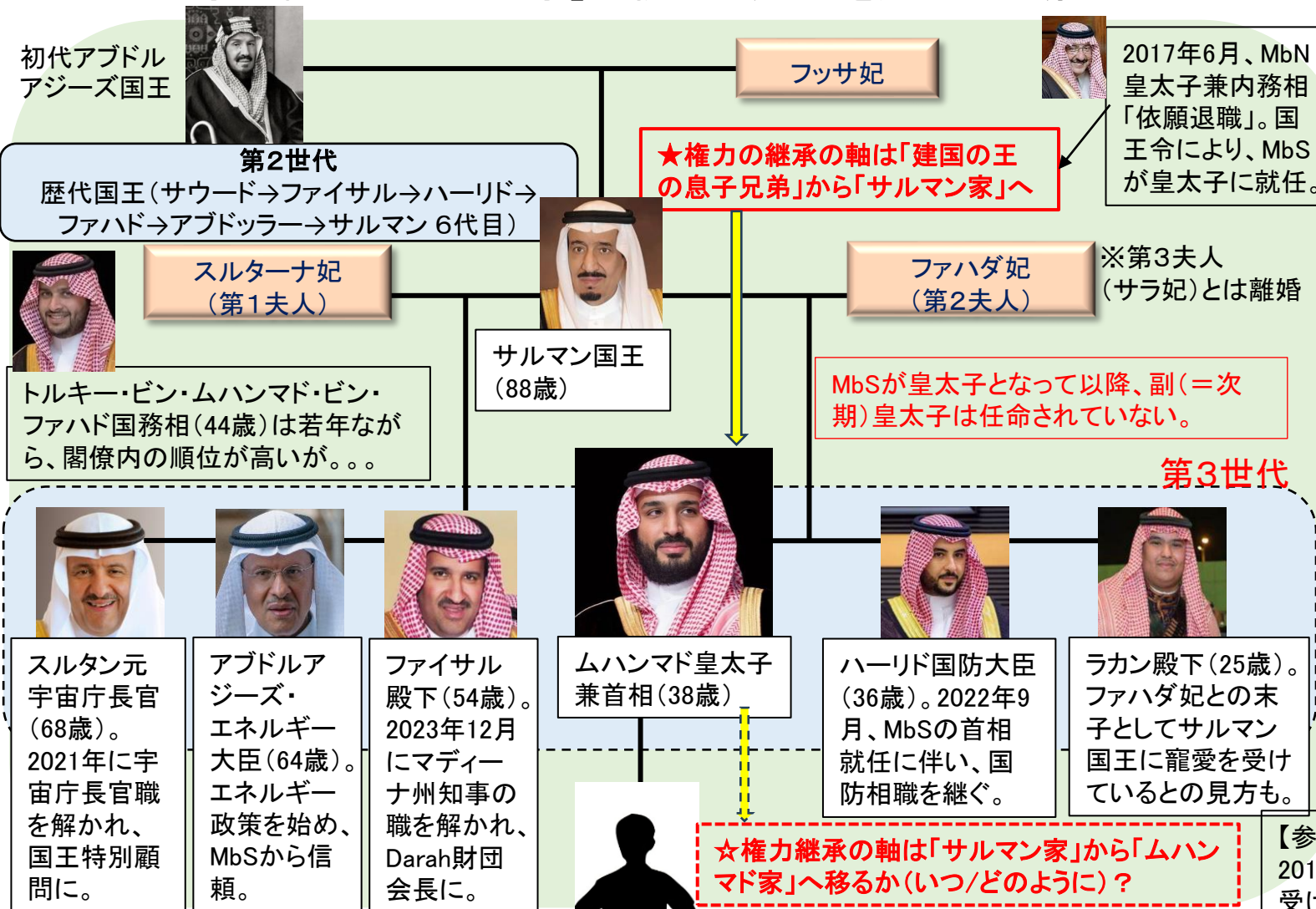
令和6年8月22日

駐サウジアラビア大使 岩井文男

1 近づく「第3世代」による統治と権力継承の行方

ポイント

- 肺炎治療が公表されるなど、サルマン国王の健康が懸念されるが、**来るべき「権力委譲は」スムーズに行われる見込み。**
- 権力継承の軸が「サルマン家」へ移る中、MbSを支える次期皇太子位の行方は不透明。



国王位の継承に関するプロセス

- ① 国王崩御の際は、忠誠の誓いを受けるまで、皇太子が権力を引き継ぐ(統治基本法第5条)。
- ② 忠誠委員会が皇太子(新国王)への「忠誠宣誓」を呼びかける(忠誠委員会法第6条)。
- ③ 皇太子が新国王に就任(統治基本法第5条)。
- ④ 新国王が皇太子候補を(1~3名)選定し、忠誠委員会の協力を得て、新皇太子が任命される(委員会法第7条)。

※2017年のMbS皇太子就任時、以後国王と皇太子は同じブランチから輩出しない旨、規定(統治基本法第5条への改定)。

次期皇太子を巡る論点

- ① 「サルマン家」へ移った権力継承の軸が再び他ブランチに移ることは考えにくい。
- ② しかし上述の2017年「改定」やMbSの横・縦の状況から、次期皇太子となるか確定的な情報はない。

【参考:過去の「権力委譲」】
2015/1/23午前1時「ア」国王崩御、同午前2時半頃、「サ」皇太子が忠誠を受ける。2005年の「ファ」国王時も約3時間半後、「ア」皇太子に忠誠。

2 緊張が高まる中東におけるサウジ外政

ポイント

- ▶ 昨年来、MbSは周辺国との関係改善を通じ、ビジョン2030の実現に寄与する外交・安保環境整備を急速に進めてきた。
- ▶ 10.7後、サウジはパレスチナ問題に関与しているが、地域の平和と安定が自国の発展に寄与するとの視点が強い。
- ▶ イラン及びイランが支援するプロキシー（ホーシー派含む）からの脅威に対処するため、イスラエルとの正常化を巡る交渉を実施。10.7以降、交渉の先行きは不透明。

MbSの外交方針「ゼロ・コンフリクト」と「サウジ・ファースト」

サウジの外交政策はビジョン2030の実現に寄与することが大目標。そのために、地域の安全と安定が不可欠【ゼロ・コンフリクト】であり、政策コストを経済・社会改革に優先的に振り向けられる環境を整備すること【サウジ・ファースト】が重要。

この外交方針の下、2023年にはイランとの外交関係回復、シリアのアラブ連盟復帰を主導。中国を始めとするグローバル・サウスとのパートナー多角化を進める。

イスラエルとの正常化に関するサウジ・米の交渉の妥結には、日々近づいている。バイデン政権がディールに成功した場合には、サウジはイスラエルと関係を樹立するであろう。サウジにとってパレスチナは非常に重要。（※二国家解決やパレスチナ国家の樹立には直接、触れず。）

正常化を巡る米国との交渉について、中東での米国の重要な位置づけが変更されることは望まない。交渉は、治安、軍事及び経済面での米国の利益を確保し、米国との関係を他国に代替させることを望まないサウジの利益に叶う。

MbSの米FOXニュースインタビュー
(2023年9月21日)



Saudi Crown Prince
interview with Fox News

イランとの外交関係回復に関し、イランがアラブ、中東諸国と協働することは繁栄や利益につながる。イランとの関係改善が継続することを望む。他方、イランの核開発を懸念。仮にイランが核を保有する場合、サウジも保有することが必要。

(参考)同インタビューでの内政面でのMbS発言
◎2027年から2028年にビジョン2040を発表予定
その内容が現在検討されている。
◎(カショギ氏殺害事件について)サウジ国内で
司法手続きは終了。治安・司法の改革が必要。

10.7
ハマス等パレスチナ
武装勢力によるイス
ラエルへの攻撃



10.7後のサウジ外政

- ◎「アラブ・イスラムの盟主」として、また歴代国王がパレスチナ問題にイニシアティブを発揮してきた経緯から、パレスチナ問題は無視できない。
- ◎自国の国益を最優先し、安全保障の増強を図る「サウジ・ファースト」を継続。ガザ情勢による国内治安の悪化、イエメン和平や正常化の頓挫を懸念。

各フロントの最近の動き

【米国】サウジにとって安保能力向上は急務。MbSは、米から安保協定や核技術の移転を含むサウジへのより強いコミットメントを引き続き追及し、協議を継続。他方、サウジの従来の立場から、パレスチナ問題と切り離れたイスラエルとの正常化は難しい。



【ガザ情勢】昨年11月にアラブ連盟OIC緊急合同サミットをホスト。ファイサル外相を团长とするミッションを派遣する等、外交努力を主導。他方、イスラエル、ハマスと直接のチャネルはなく停戦協議には関与していない。

【情勢エスカレートへの対応】ヒズボラ、ハマスの幹部の殺害を受け緊張が高まる中、サウジはイランとのコミュニケーションを継続。ハマスやヒズボラといったイランが支援する勢力への親和性はない。ホーシー派は、ガザ情勢を受け紅海上の商船やイスラエルに対する攻撃を行っているが、サウジとしては、自国にスピルオーバーしないよう、ホーシー派の懐柔に腐心。

3 日サウジ関係(政治レベルのコミットメント強化)

ポイント「日サウジ関係の現在地」

- 戦略的パートナーシップ協議会(首脳間)、外相級戦略対話、日・GCC外相会合、日サウジ・ビジョン2030閣僚会合(外務省、経産省)、エネルギー協議(経産省)等、ハイレベルの継続的・重層的な関係が確立。協力推進のモメンタム増大。
- 日サ・ビジョン2030は折り返し地点。万博や外交関係70周年等、二国間の機運を盛り上げるビッグ・イベントが追い風に。
- エネルギー、経済多角化、ソフトパワー等ムハンマド皇太子が重視する分野で、イニシアティブや協力の着実な実施、一層の発展に向け、サウジ政府から日本への期待大。

昨年8月以降の主な日サウジ要人往来

2023年7月	岸田総理のサウジ訪問(MbSとの会談、ビジネスラウンドテーブル開催)
2023年7月	ハーリド国防大臣の訪日(浜田防衛大臣との会談)
2023年9月	林外務大臣のサウジ訪問(第1回外相級戦略対話、第1回日GCC外相会合)
〃	ルメイヤーPIF総裁の訪日
2023年10月	スワーハ通信・情報技術大臣の訪日
2023年12月	齋藤経済産業大臣及び深澤外務大臣政務官のサウジ訪問(第7回日サウジ・ビジョン閣僚会合、日サウジ・エネルギー協議)
2024年5月	河野デジタル大臣のサウジ(NEOM)訪問
2024年5月	アブドルアジーズ・エネルギー大臣、ファーレハ投資大臣、バドル文化大臣、スワーハ通信・情報技術大臣の訪日(日・サウジ・ビジョン2030ビジネスフォーラム) ※MbS皇太子の訪日延期
〃	バドル文化大臣の訪日(盛山文部科学大臣との会談)

※この他、昨年9月、G20(於ニューデリー)で首脳会談、首脳電話会談(10月)、外相間で10月及び2024年5月に電話会談を実施。また、2024年3月、上村政府代表がリヤドを訪問し、ガザ情勢への対処で連携を確認。



首脳間の関係構築



GCCを含めた湾岸地域との協力強化



日サウジ・ビジョンの進展への双方のコミットメント

日サウジ首脳テレビ会談(5月21日)



「戦略的パートナーシップ協議会」の設置で一致。外交関係70周年に向け、二国間の戦略的パートナーシップを一層強化する。



日本への原油の安定供給にコミットする。エネルギー以外の様々な分野での日本との協力を期待。文化的な分野でも日本は非常に卓越した国。ソフトパワー分野での協力を一層深化させたい。

日・サウジ・ビジョン2030ビジネスフォーラム(5月21日)

・訪日したサウジ閣僚の参加を得て、齋藤経産大臣が出席。日本政府・企業関係者120人、サウジアラビア政府・企業関係者約210人が参加。
 ・「製造業」「サーキュラーエコノミー」「ヘルスケア」「エンターテインメント・ゲーム」の分野でパネルディスカッションを開催。30件超の協力覚書(MoU)締結が発表。



4 サウジ経済(サウジビジョンで進む改革)

ポイント

- ▶ 世界最大級の原油埋蔵量、石油生産量及び輸出量を誇る。輸出総額、財政収入の多くを石油に依存。石油依存からの脱却・経済多角化・雇用創出に向け、まい進。
- ▶ 2016年4月、「サウジ・ビジョン2030」が発表され、発足から8年経った2023年時点で、234の主要業績指標のうち197を達成。

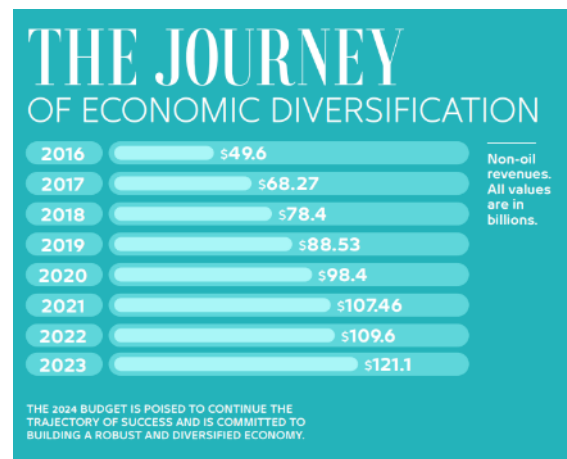


サウジの変革

- 2016年のビジョン2030発足より、GDPは概ね順調に上昇している。
- 「経済多角化」について、非石油産業の収入はサウジビジョン2030が発表された2016年から毎年増加しており、2023年には、2016年の約2.4倍となる1,211億ドルを超えた。
- 経済多角化による雇用機会増加の恩恵もあり、「失業率」については、2016年の12.3%から2023年には7.7%まで低下。
- 「女性の社会参画」については、2030年の目標であった30%を既に達成し、新たに40%の目標を設定している。



GDP総額の推移



非化石産業の収入推移



女性参画比率

5 サウジ経済(PIFの投資活動)

ポイント

- Public Investment Fund(PIF)は、世界第5位のソブリンウェルスファンド(政府系ファンド)であり、**計13分野の戦略的投資セクターを設定の上、93の企業を設立、サウジ国内外で長期投資を実施**。ビジョン2030を踏まえ、**同国の経済変革及び経済多角化を主導・加速化させている**。
- 2023年末までの**運用資産は2兆8,710億SR(7,650億ドル)**に達し、**2024年7月には9,250億ドルを超える**。

PIFが投資する企業の例

● Manara Minerals

サウジの鉱業企業MaadenとPIFによるベンチャー。世界各地の鉱業資産に投資し、弾力的なグローバル・サプライチェーンの構築を支援。2023年12月にJOGMECと協力覚書(MOC)を締結。



● Riyadh Air

PIFが所有する首都リヤドをハブ空港とする航空会社。2030年までに世界100都市以上に就航予定。



● Savvy Games Group

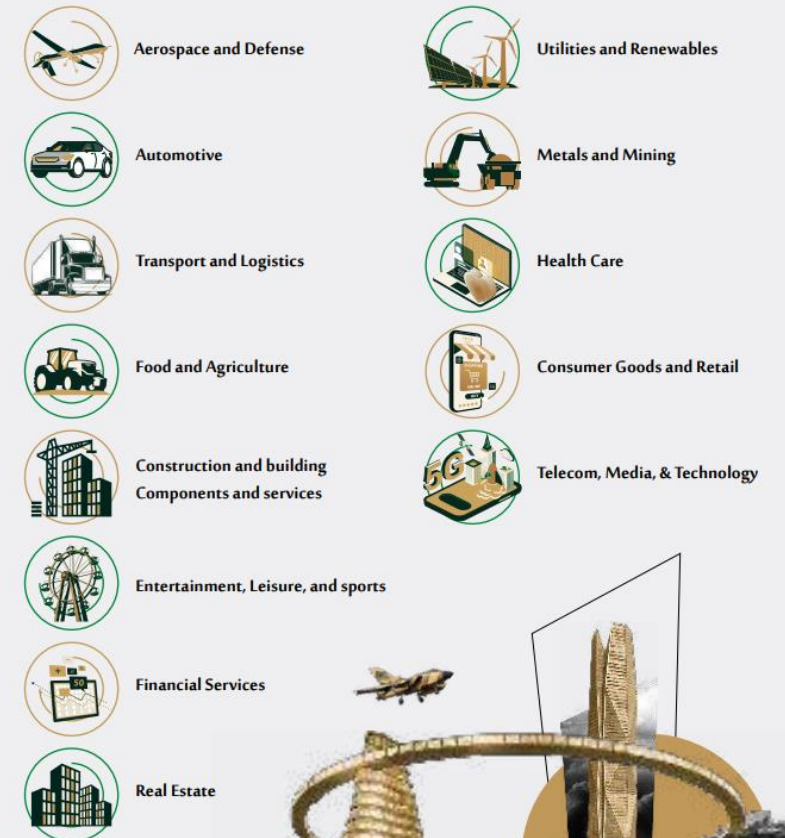
esportsとゲーム業界の長期的な成長と発展を推進することを使命としてPIFが設立。



13分野の戦略的セクター

PIF Strategic Sectors

To deliver the best outcomes, achieve the highest goals and support the national economy, PIF Program identified 13 strategic sectors that constitute a priority in the local market, namely:



Public Investment Fund Program 2021-2025より抜粋

6 サウジ経済(ギガプロジェクトの現状)

ポイント

- 「サウジ・ビジョン2030」の経済多角化などの実現に向け、PIFは5大ギガプロジェクトに投資。
- 26,500km²の巨大のスマートシティ「NEOM」、28,000Km² に50のリゾートを計画する「RED SEA」、GDP360億ドルの貢献を目指す巨大娯楽施設「Qiddiya」、サウジの住宅所有率70%増加を目指す不動産開発計画「ROSHN」、年5,000万人の訪問を目指す世界遺産「DIRIYAH」で構成される。
- 現在、開発資金調達という新たな課題が生じており、「選択と集中」を進めている。



ギガプロジェクトの現状

- NEOMでは、主要プロジェクトの一つであり、170kmのスマートシティTHE LINEの計画縮小の報道がある一方で、SINDALAHなどの観光地は順調に進展。
- ドラゴンボールテーマパークの建設が決まったQiddiya(キッディーヤ)においては、Six Flags、AQUA ARABIAなどの巨大テーマパークの建設が順調に進捗。

➡ ビジョン2030の現時点的な実現に向け、ギガプロジェクトの中で「選択と集中」が進む。

ギガプロジェクトの完成イメージ(左)と現状(右)



THE LINE (NEOM)



Six Flags (Qiddiya)



NEOMプロジェクト

ポイント

- ムハンマド皇太子は、「最も安全・効率的・未来志向で生活と仕事に最適な場所となるスマートシティ」として**NEOM**を発表。
- ①先進的な都市計画プロジェクトの**THE LINE**、②自然美と先進技術が融合し豪華な観光ができる**SINDALAH**、③標高2,600mの山々を活かした山岳観光地の**TROJENA**などから構成。
- ① **THE LINE** : 全長170kmにおよぶスマートシティ。世界の最先端技術を集約させつつ**自然環境を95%維持した都市開発**。900万人の居住を想定。
- ② **SINDALAR** : 風光明媚な紅海の玄関口であり、豪華な観光地。84万m²に広がる自然美と最高クラスのホスピタリティ、水上・水中でのアクティビティを提供。
- ③ **TROJENA** : 観光セクターの発展戦略の一環として、アカバ湾岸から50kmの標高2,600mの山々が連なる地域に**山岳観光地**を作り出す。2029年アジア冬季大会開催予定。

① THE LINE 完成イメージ



② SINDALAH 完成イメージ



③ TROJENA 完成イメージ



Qiddiya (キッディーヤ) プロジェクト

- 「Qiddiya (キッディーヤ)」は、サウジが進める巨大インフラ開発事業で、国内ギガプロジェクトの1つ。
- 公的投資基金PIF傘下の「キッディーヤ・インベストメント・カンパニー(QIC)」により、国内のエンタメ、スポーツ、芸術分野の振興を目的とした巨大インフラ施設として、2019年から開発が進められているところ。
- リヤドの中心部から約30分の郊外に位置し、360km²の敷地内に、60万人の住民を誘致するとともに、6万棟のビル建設や2万人収容のスタジアム、Eスポーツ・ゲーム施設、F1サーキット、2カ所のゴルフ場、米・Six Flagsの遊園地、AQUA ARABIA等を建設する予定。
- 2024年3月、QICは日本の東映アニメーションと戦略的パートナーシップを結び、キッディーヤにて世界初となるドラゴンボールのテーマパークを建設すると発表。東京ドーム約10個分の広さに、30以上のアトラクションやホテルを併設。
- キッディーヤは、2030年までに年間4,800万人の訪問者誘致を目標としており、全て完成されれば年間360億ドルのGDPを生み出すと予測されている。

▼ Qiddiya位置



▼ Qiddiya完成予想図



▼ ドラゴンボール テーマパーク 完成予想図

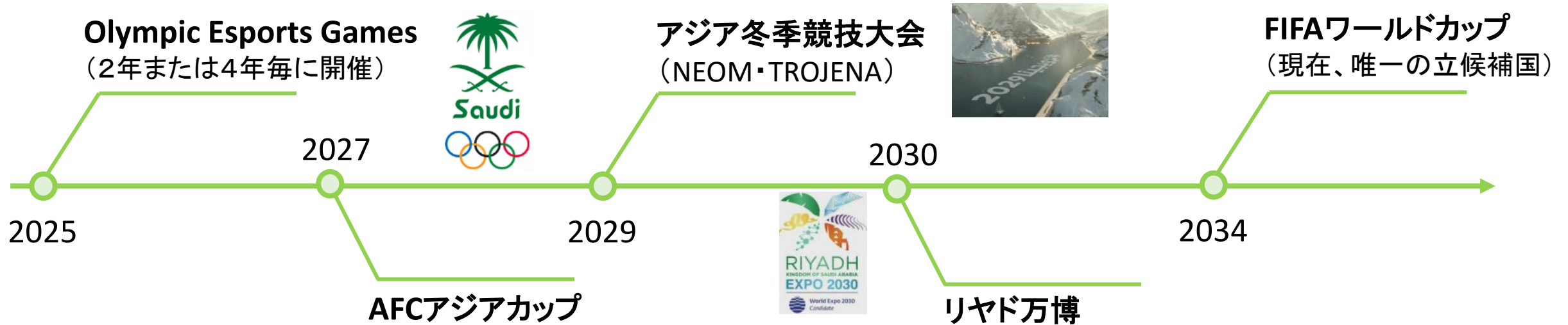


▲ R6・3月
パートナー
締結

7 サウジ経済(サウジで開催される大型イベント)

ポイント

- サウジアラビアは、2022年の名目GDPが初めて1兆ドルを超え、世界17位となった。
- 経済規模に見合った認知を獲得すべく、万博やワールドカップなど大型イベントを次々と誘致。



●五輪

- ・2029年にアジア冬季大会をNEOMの山岳観光地となるTROJENAで開催予定。
- ・IOCはサウジNOC (National Olympic Committee) と12年間のパートナーシップを結び、2025年にサウジアラビアでOlympic Esports Gamesを開催することを発表。2年または4年毎に開催予定。(今年より毎年サウジで開催される賞金6000万ドルのEsports World Cupとは別で開催。サウジはEsportsの中心に。)

●サッカー

- ・2027年にはAFCアジアカップを開催。2034年FIFAワールドカップでは、現在、唯一の開催立候補国となっており、積極的に誘致。
- ・サウジ・プロフェッショナルリーグでは、潤沢な資金を元に、クリスティアーノ・ロナウド(アル・ナスル)、ネイマール(アル・ヒラル)など有名選手が加入。

●万博

- ・2030年リヤドで開催。4,000万人以上の来場者を想定した大規模な計画を策定し、ムハンマド皇太子を中心に誘致運動を展開し成功。